

---

# あの空を覚えているかな

歩美

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

あの空を覚えているかな

### 【Nコード】

N6753N

### 【作者名】

歩美

### 【あらすじ】

三北中学校に通う鈴。夏休みに友達とカラオケに行く事になり同じクラスの男子、秦君と恋愛関係に！？

く蒼い青い綺麗な空

『夏休み』

七月二十日、私達の中学はやっと夏休みに入る。

長い長い校長先生の話聞き終わり体育館から出て教室へと向かう。

私は親友の輝流と泉と一緒に教室に向かっていた。

「鈴!!」

二人と会話をしていると後ろから自分の名を呼ばれて振り返る。

ー水川鈴ー

今年の4月から中学二年生になった。

どちらかといえば可愛いがこれといって美人でもなかった。

緩く毛先がカーブしていて淡い茶色の髪を胸のあたりまでなびかせている。

「どっしたの?」

鈴は廊下を走ってきた自分の友達、山下夏に声をかけた。

「明日から夏休みでしょ？カラオケ行かない？」

「カラオケ？いいけど、泉と輝流もいい？  
私、コノ二人の前じゃないと歌えないの」

「ウチも！？」

「私も？」

後ろで二人が驚いている。

輝流はグチグチ言いながらも了承してくれた。

だが泉は用事がある、といわれて無理になってしまった。

「本当にゴメンね？」

顔の前で手を合わせて誤る泉。

「大丈夫だよ。急に誘ってごめんね。  
夏ちゃん、後誰が来るの？」

鈴は泉に軽く答えて夏に声をかけた。

「えーとね女子は同じクラスの唯ちゃんと美喜ちゃんと加奈だよ。男子は同じクラスの森田君と秦君と二組の藤原君と吉田君。」

合計、10人だよ」

「男子も一緒に行くの？」

「もちろん！じゃあ明日十時に図書館前に集合ね！」

「「わかった、バイバイ!!」」

私と輝流の声がかぶった。

お互い顔を見合わせて笑いあった。

これから――

楽しい――

夏休みが――始まる――



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6753n/>

---

あの空を覚えているかな

2010年10月10日06時37分発行